

日付:2014年11月23日／聖書:イザヤ書65:17～25

主題:「新天新地」

今年のノーベル平和賞は、マララ・ユスフザイさんパキスタン出身、イスラム教徒の女性で 17 歳の高校生。これまでの最年少受賞者となる。学校が好きで、勉強が大好きな普通の女学生である。ところが彼女の国において、イスラム原理主義勢力「パキスタン・タリバン運動(TTP)」が、イスラム教の教えは、女性は教育を受けてはいけない・・・との解釈のもとで、国に圧力をかける。それに反論したのがマララさんだった。まだ中学生の頃にブログで発信して行く。女性にも教育が必要、学校に普通に行く権利がある。彼女の世界を動かした言葉がある。「みんなで本とペンを手に取りましょう。本とペンは私たちの最も強力な武器です。1人の子どもと1人の教師、1冊の本、1本のペンが世界を変えることができます」。

多くの支持を受けて行く中でマララさんは、タリバンから命を狙われる。2012年10月9日、銃で撃たれた。しかし、彼女は奇跡的に命を取り留めた。イギリスで治療を続けて2か月半で退院する。すぐにまた、世界に発信を始めた。その勇気を称えて平和賞が授与された。

今朝のイザヤ書は、勇気と希望が語られている。《見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する》とは、どんな人でも、どんな人とも、手を取り合い、共に歩んで行く世界のことである。6:25に《狼と小羊は共に草をはみ／獅子は牛のようにわらを食べ、蛇は塵を食べ物とし／わたしの聖なる山のどこにおいても／害することも滅ぼすこともない、と主は言われる》とあるように、この世では有り得ない状況が記されているが、しかしここは神が創造する「新天新地」のことが記されているのであり、どんな人でも、どんな人とも、手を取り合い、共に歩んで行く世界を創造すると神は語っておられるのである。

マララさんが恐怖と闘いながらも発信し続け、教育の大切さを語り続けるのは、もうすでに「新天新地」が見えているからではないかと思う。私は、イスラム教だから、キリスト教だから、仏教だからという宗教の枠組みは超えるべきだと考えている。ましてや聖書を基盤とする私たちキリスト教会は、この聖書の御言葉に勇気と希望をもって向き合い、声を発して行く者、行動を起こしていく者か。マララさんの爪の垢でも煎じて飲ませて頂こうか。聖書の言葉ではないが。(神谷)